

脆弱性のテスト環境を併用利用した攻撃検知・防御支援システム Web Attack Detection and Prevention System in Conjunction with Vulnerable Testing Environment

張 邯尹*	中川 佑人*	花田 真樹†	村上 洋一†
Hanyin Zhang	Yuto Nakagawa	Masaki Hanada	Yoichi Murakami
早稲田 篤志†	石田 裕貴‡	三村 隆夫‡	布広 永示†
Atsushi Waseda	Yuki Ishida	Takao Mimura	Eiji Nunohiro

キーワード WAF,

1 あらまし

スマートフォンやタブレット端末などの普及に伴い、ECやSNSなどの様々な分野で多くのWebサービスが利用されている。Webサービスの利用者が増える一方で、Webサイトの脆弱性を狙った攻撃も増え続けており、その対策が急務となっている。Webサイトの脆弱性を狙った攻撃の対策として、WAF (Web Application Firewall) が開発され、運用されている。WAFはWebサイトへのHTTP/HTTPS通信を検査し、あらかじめ定義された検知ルールによるマッチングにより攻撃を識別し、遮断する。しかしながら、WAFによる誤検知が発生した場合、サービスに大きな影響を及ぼす可能性があるため、攻撃防止のための対応と攻撃によるサービスへの影響の把握が必要となる。

そこで本研究では、本番のWebサイトとは別に設置した脆弱性を含むテスト環境において攻撃を検知した場合、予想されるサービスへの影響をWebサイト管理者に通知するとともに、WAFの検知ルールを更新することにより攻撃を防止するシステムを提案する。

提案システムでは、まず利用者と本番のWebサイトとの間にWAFを導入する。また、本番のWebサイトとは別に、脆弱性を含むテスト環境を併用して設置し、本

番のWebサイトへのHTTP/HTTPS通信をテスト環境にも転送する。テスト環境において通信やシステムへの影響を定期的に分析し、その分析結果から攻撃と判断した場合は、予想されるサービスへの影響をWebサイト管理者に通知するとともに、WAFの検知ルールを自動生成し、(Webサイト管理者の判断を基に) WAFを更新することにより攻撃を防止する。

WAFの検知ルールのチューニングに関する研究として、WAFのログを機械学習を用いて分析し、検知ルールの修正案をWebサイト管理者に提示するものがある[1]。先行研究[1]では、WAFの運用中の検知ルールの更新を想定していない。また、誤検知の通信ログを機械学習を用いて分析しているために、本番のWebサイトにおけるサービスへの影響を予測することができない。

上述の課題に対し、本研究では、併用して設置した脆弱性を含むテスト環境を用いることにより、本番のWebサイトにもどのような影響が考えられるかを予想することが可能となる。加えて、その予想されるサービスへの影響とそれに関連付けられる自動生成したWAFの検知ルールを用いて、(Webサイト管理者の判断を基に) WAFを更新することにより攻撃を防止する可能となる。

参考文献

- [1] 工藤千寛 他, "機械学習によるログ解析を利用した WAF Mod Security 用チューニングツールの開発," 情報処理学会 火の国情報シンポジウム 2021, A4-4, 2021年3月.

* 東京情報大学大学院 総合情報学研究科 Tokyo University of Information Sciences, Graduate School of Infomatics 4-1 Onaridai, Wakaba-ku, Chiba-shi, Chiba 265-8501, Japan.

† 東京情報大学大学院 総合情報学部. Tokyo University of Information Sciences, Department of Infomatics 4-1 Onaridai, Wakaba-ku, Chiba-shi, Chiba 265-8501, Japan.

‡ 株式会社セキュアブレイン SecureBrain Corporation 3-12 Kioicho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0094, Japan.